

平成22年4月20日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19330178
 研究課題名（和文）「いのちの尊厳」教育における生命科学の位置価値に関する教育課程の国際比較研究
 研究課題名（英文）The international comparative research into the curriculum on functions of the life-science concerning with an education of human dignity
 研究代表者：上智大学・総合人間科学部・教授・増渕幸男
 研究者番号：40149076

研究成果の概要：

本研究では生命科学の飛躍的発展がもたらしている教育現実への影響について、教科書・教育課程で取り扱われている「いのちの尊厳」の学びに焦点を当てて、その実際を明らかにした。また国際比較研究の一端としては日本との文化的・思想的・歴史的な繋がりが強い東アジアに対象国を特化した研究を実施し、中国・韓国の教育学研究者と共同討議を行い、死生観・生命科学の位置・教育現実での問題点、日本との共通点を明らかにできた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成19年度	1,900,000	570,000	2,470,000
平成20年度	1,800,000	540,000	2,340,000
平成21年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	5,000,000	1,500,000	6,500,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：いのちの尊厳・生命科学・ゲノム・死生観教育

1. 研究開始当初の背景

教育現場ではいじめによる自殺や異質な他者を排除する悲惨な状況が頻発している。そこには人間の尊厳を毀損する問題が「いのちの尊厳」を学びえていない教育課程として見えている。このことは学問研究の成果を取り込む教育課程編成のあり方としても大きな反省を促すものである。そうした現実の背景には生命科学の飛躍的発展がもたらしている人間の生命に関する理解の仕方が影響をもっている。生命を科学的技術的に操作可能になることを当然とみなす考え方の支配である。科学の功績のみが過大評価されてい

る風潮によって、ゲノム・クローン・遺伝子操作・臓器移植 etc. がもたらす負の側面に対しては教育も無関心であることによって、「いのちの尊厳」に対する正しい理解がなされていない教育課程編成のあり方と言える。この問題は現代ではグローバルに共通したことでもあるので、わが国の生命科学と教育学の関連性がどのようになっているかを理解するためにも、国際比較による解明が求められる。その際、日本と比較的歴史と文化を共通基盤に据えることのできる東アジアの国々との比較を通して、「いのちの尊厳」についての教育内容と育成課題を明らかに

する時代状況にあると認識した。

2. 研究の目的

本研究は現代の生命科学の飛躍的發展によって現出してきた人間の生と死の解釈問題が、初等・中等および高等教育の現場において生じさせているかを分析し、その教育的対応を東アジア（中国・韓国）との比較を通して理論的実証的に解明することを目的としている。この目的実現のために中国と韓国の教育思想と学校現場で展開されている具体的内容を検討し、特に我が国と教育関係を深めている中国・韓国の教科書の分析および両国の教育研究者との共同研究会を発足させ積極的な意見の交換を通じて共通の教育課題について研究連携を深めることをめざす。そのため生命科学・医学・看護学の専門家と教育学研究者との対話を重視することとする。

3. 研究の方法

理論研究として国内外の関連資料を収集整理し、東アジアの国々で使用されている教科書を分析する。いのちの教育を実践している現場教師との共同研究会を開催して実態を把握するとともに、教科書が与える生徒への死生観の学び方を確認する。学際的研究を推進するために医学・生命科学の専門家を招聘して研究会での討議と問題抽出を行う。大学生へのアンケート調査を実施し、学問分野別の死生観に関する認識に相違があるかどうかを分析するとともに、教職課程に在籍する学生のいのちの尊厳に関する意識を解明する。国内の特別支援学校におけるいのちの尊厳教育に対する対応および教育内容を実施調査する。中国・韓国の教育学研究者との共同研究を推進するため、いのちの尊厳教育に関する両国の教育現実について討議する。以上の成果を踏まえて初等・中等・高等教育の各段階におけるいのちの尊厳教育を実践方向づけるための教科書の内容と教育課程の編成に寄与できる提言を行う。

4. 研究成果

生命科学による生命理解と「いのちの尊厳」および死生観に関する関連資料についてはほぼ収集整理でき、また外国の教科書に関しては中国・韓国・ベトナムの教科書を収集し関連内容を翻訳し、タイの教科書についても分析を試みた。それらと日本の教科書を比較することにより、わが国の生命科学に関連する教育内容が他国に比べて質量ともに充実していることがわかった。しかし、一方ではそれらの記述内容自体が必ずしも正確性を維持しているとは限らず、専門術語の内容を生徒が理解できるような工夫がなされておらず、「いのちの尊厳」に関して触れている教科書は皆無であることが知られた。教育課程編成において考慮すべき課題である。

医学・生命科学の専門家との討議では科学的研究の現場意識が成果主義に支配されていることが再確認でき、また人文社会科学と自然科学とではいのちの概念が決定的に相違することも明確になった。人間の理解の仕方として精神を含めた生命体全体を問題にする人文社会科学に対して、物質として生命を理解する自然科学との断絶をどのように埋めるかが問われる。「いのちの尊厳」を考える教育においては、両者の積極的な対話と共同研究の推進にかかっていると判明した。

近代化の流れの中で大家族の減少が進行し、青少年にとっては身近に死に関する体験ができない状況が支配的となり、東北地方の中学生の「いのち」の学びを検証すると大都市の生徒がその機会を持っていないことも明確になった。大学生に対するアンケート調査の結果は共同研究者の関係大学に限定したが、8大学の差は学問分野に応じての差として理解できる結果であり、医学・看護学関係の学生と人文社会科学関係の学生とは生命観に相違が見られた。この理由を解明することも初等・中等教育での進路指導との関係で見えてくるものがあるのではないかと考えた。

中国・韓国との研究課題に関する共同研究では、両国との研究討議をそれぞれの国で行い、両国共に少子化推進を行っている点から生命科学の成果に関しては教育課程での配慮は特になされていないと知られた。強化書の分析においても道徳的視座からの一般論はあるが、重点的な「いのちの尊厳」教育はなされていないとわかり、わが国と同じ問題関心を共有できた。一方、両国共に死生観については宗教的・思想的背景が根本にあり、わが国との認識に大きな相違があると思われた。教育学研究においては両国共に「いのちの尊厳」教育に関する研究が未開拓であり、今後研究協力していくべき重要課題であるとの認識に至った。中国でも自殺者の数が多く、葬送儀式においても近代化の影響と課題について認識の一致をみることができた。

最後に、教科書および教育課程編成に対する「いのちの尊厳」に関する提言については、研究成果の公表方法についてもこれまで行ってきた学会発表を重視し、また「研究成果報告書」（平成21年3月）を公刊した。また研究代表者（増淵）がこれまでの成果を取り込んで『いのちの尊厳教育とヒューマニズムの精神』（上智大学出版、2010年）として出版することができた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計19件）

①佐竹正延：Damayanti, T., Kikuchi, T., Zaini, J.,

Daito, H., Kanehira, M., Kohu, K., Ishii, N., Satake, M., Sugamura, K. and Nukiwa, T. Serial OX40 engagement on CD4+ T cells and NKT cells causes allergic airway inflammation. Am. J. Respir. Crit. Care. Med. (in press) 査読有

② 佐竹正延 : Wong, W-F., Nakazato, M., Watanabe, T., Kohu, K., Ogata, T., Yoshida, N., Sotomaru, Y., Ito, M., Araki, K., Telfer, J., Fukumoto, M., Suzuki, D., Sato, T., Hozumi, K. Habu, S. and Satake, M. Over-expression of Runx1 transcription factor impairs the development of thymocytes from the double negative to double positive stages. Immunology (in press) 査読有

③ 増淵幸男 : DIE WÜRDE DES LEBENS IN DER ERZIEHUNG. 平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 124-129、2010 年 3 月

④ 熊倉鴻之助 : 「生命科学の歴史：脳と神経の生命科学」平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 21-23、2010 年 3 月

⑤ 熊倉鴻之助 : 「いのちの尊厳」教育の国際比較に関する一試み」平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 15-20、2010 年 3 月

⑥ 熊倉鴻之助 : 「パーキンソン病治療の歴史から」平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 25-30、2010 年 3 月

⑦ 加藤守通 : 「生の尊厳への教育」(韓国・チョン・ユンクン) 翻訳、平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 117-123、2010 年 3 月

⑧ 伊勢孝之 : 「道徳とこころのノートに見るいのちの教育」平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査読なし、pp. 9-14、2010 年 3 月

⑨ 池田全之 : 「労働的人間形成の論理とそのアクチュアリティについて一意識の自己形成をめぐる 1800 年前後のドイツ思想の一断面」平成 21 年度科学研究費補助金報告書所収。巻号なし、査

読なし、pp. 53-74、2010 年 3 月

⑩ 佐竹正延 : Zhao, Y., Zhang, X., Guda, K., Lawrence, E., Sun, Q., Watanabe, T., Iwakura, Y., Asano, M., Wei, L., Yang, Z., Zheng, W., Dawson, D., Willis, J., Markowitz, S., Satake, M. and Wang, Z. Identification and functional characterization of paxillin as a target of protein tyrosine phosphatase receptor T. Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 107:2592-2597, 2010. 査読有

⑪ 西平直 : 「無心の誘惑・無心の強迫—無心・信仰・スピリチュアリティ」『宗教研究』363 号、(日本宗教学会)、2010 年、42-64 頁。査読有

⑫ 増淵幸男 : 「現代教育の価値変容」中国教育部学術交流誌。2009 年 9 月。査読なし。Pp.30-47

⑬ 佐竹正延 : Feng, J., Iwama, A., Satake, M. and Kohu, K. MicroRNA-27 enhances differentiation of myeloblasts into granulocytes by post-transcriptionally down-regulating Runx1. Br. J. Haematol. 145:412-423, 2009. 査読有

⑭ 佐竹正延 : Kametani, Y., Suzuki, D., Kohu, K., Satake, M., Suemizu, H., Sasaki, E., Ito, T., Tamaoki, N., Mizushima, T., Ozawa, M., Tani, K., Kito, M., Arai, H., Koyanagi, A., Yagita, H. and Habu, S. Development of monoclonal antibodies for analyzing immune and hematopoietic systems of Common marmoset. Exp. Hematol. 37:1318-1329, 2009. 査読有

⑮ 佐竹正延 : Kohu, K., Ohmori, H., Wong, W-F., Onda, D., Wakoh, T., Kon, S., Yamashita, M., Nakayama, T., Kubo, M. and Satake, M. The Runx3 transcription factor augments TH1 and down-modulates TH2 phenotypes by interacting with and attenuating GATA3. J. Immunol. 183:7817-7824, 2009) . 査読有

⑯ 西平直 : 「スピリチュアル・ケアと「我執性」日本ホリスティック教育協会編『ホリスティック・ケア—新たなつながりの中の看護・福祉・教育』せせらぎ出版、2009 年、156-171 頁。

⑰ 西平直 : 「死んでゆく不思議・生まれてくる不思議

議—子どもたちにどう伝えるか』『大谷学報』第89巻第1号、2009年、78—100頁。査読なし

⑱西平直：「発達と超越の交叉反転としての『超越性』—世阿弥『伝書』を手がかりとして」『教育哲学研究』100号記念特別号、2009年、263—278頁。査読有

⑲西平直：Outline of Zeami's Philosophy of Practice and Expertise: A Heuristic Resume, in: The Self, the other and Language, The Global COE Programme, Revitalizing Education for Dynamic Hearts and Minds, Kyoto University 2009, Dec. pp.49- 54.査読なし

〔学会発表〕(計2件)

①増渕幸男「ヤスパース哲学と教育の問題」日本ヤスパース協会第26回大会、2009年12月5日。早稲田大学

②増渕幸男「公共哲学と教育哲学の接点を求めて」教育哲学会第52回大会、2009年10月。名古屋大学。

〔図書〕(計2件)

①増渕幸男『「いのちの尊厳」教育とヒューマニズムの精神』2010年4月、上智大学出版。259頁。

②西平直『世阿弥の稽古哲学』2009年、東京大学出版会。316頁。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

○取得状況(計 0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

増渕幸男(MASUBUCHI YUKIO)

上智大学・総合人間科学部・教授

研究者番号：40149076

(2) 研究分担者(平成18年度。平成19年度から連携研究者)

熊倉鴻之助(KUMAKURA KONOSUKE)

上智大学・理工学部・教授

研究者番号：70129790

羽入佐和子(HANYU SAWAKO)

お茶の水女子大学・文教育学部・教授

研究者番号：00126351

佐竹正延(SATAKE MASANOBU)

東北大学・加齢医学研究所・教授

研究者番号：50178688

加藤守通(KATO MORIMICHI)

東北大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：40214407

和田サヨ子(WADA SAYOKO)

聖母大学・看護学部・教授

研究者番号：70310084

鈴木晶子(SUZUKI SHOKO)

京都大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：10231375

西平直(NISHIHIRA TADASHI)

京都大学大学院・教育学研究科・教授

研究者番号：90228205

伊勢孝之(ISE TAKAYUKI)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号：50113923

池田全之(IKEDA TAKEYUKI)

お茶の水女子大学・文教育学部・准教授

研究者番号：50212775

(3) 連携研究者

同上。

